

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	多機能型事業所シンフォニー		公表日		R7年 3月 26日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用児の特性や動きに合わせて配置を考えています。	マットを利用する利用者の多い時には少し手狭に感じることがあります。トイレが増えると待ち時間が少なくて済みます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		医ケア児対応の多い時の看護師や保育士の配置やシフトを考えています。	曜日で利用者数が偏っているときは足りなく感じますが、シフトでバランスを調整しています。送迎時の医ケア児対応が増えているので、看護師を増やすなど必要を考えています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		天井から製作物を見えるように飾ったり、配置や主命の当たり方など配慮しています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		毎日の消毒を徹底しています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		小上がりの利用やカーテンで仕切ったスペースを利用しています。	個別対応が今以上に増えた時が課題です。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		振り返りは毎日行い、休みの職員も確認できるように業務日誌等に記録を残しています。	時間がかかり過ぎないように、効率的に進めるよう心がけています。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		評価表だけでなく、送迎時のやりとりを大事にしています。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		児発管が現場に入ること、話しやすい雰囲気を作っています。毎日のミーティングも重視しています。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		正式な第三者評価ではないですが、外部アドバイザーに入っています。	正式な第三者評価の導入は今後の課題です。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		社内に研修制度があります。月1回の内部研修を実施しています。	研修する時間の確保が課題です。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			医ケア児のプログラムづくりに苦労しています。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		保護者の話をよく聞くことで支援計画作成に反映させています。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		特に振り返りの中で共通理解が持てるようしています。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		共有に関しても振り返りやミーティングで行なわれています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		こどもの状況確認、アセスメントは、保護者との関わり、ミーティング等で確認しています。	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントは今後必要と考えています。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		活動案を作成し、評価もしています。記録に写真も残しています。	

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		視覚で活動の違いが認識できるよう工夫しています。また活動の中で季節感を感じられるよう工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		土曜、祝日、長期休みなど利用時間が長い時は、集団でのあそびから手遊びを入れるなどして、より集団で関わられるようしています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		週案をつくり朝会などで立案者から他職員に伝えてるなどしています。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		当日もしくは翌日に情報共有をします。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		子どもたちの様子に対して、いつもと違う時や発作、学校、家での様子などを確認しながら支援に入っています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		児発管が現場に状況を確認しながら行っています。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		医ケア児の特性に配慮して、無理のないよう活動を考えています。そのような中で調理活動も実施しています。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		制作活動の際も、選択しやすい色選びなどをすることで機会をつくっています。また選択肢も選びやすいよう考えています。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		医ケア児の担当者会議の時は看護師同席できるようにしています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校や他事業所、訪問看護、協力医院と連携しています。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		送迎時のやりとりだけでなく、必要に応じて電話でもやりとりしています。サポートブックも共有しています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		療育センター等と情報共有しています。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		生活介護施設の職員の見学を受け入れたりしました。情報共有も行っています。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		連携はしています。	スーパーバイズや助言等を受ける機会は今後必要になってくると思われます。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			地域交流は今後の課題です。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○			協議会等の参加も今後の課題です。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時やLineなども活用して共通理解に努めています。特に、送迎時に保護者と話す機会は情報を共有しやすいです。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○			家族支援プログラムや研修については今後の課題です。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		主に利用開始前に行っています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		主に面談や担当者会議の場で確認しています。必要に応じてLineや電話でも確認しています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者とのコミュニケーションを心がけていて、同意も得ていると考えています。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時に子どもさんの様子だけでなく、保護者の様子も気にかけて、声をかけるようしています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			保護者会等は今年度できなかったためまた機会をつくりたいと考えています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		気軽に言い出しやすいよう日頃の関係を大事にしています。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		インスタを活用し活動の様子を発信したり、製作物を持ち帰ってもらうことで様子を感じ取ってもらうよう努めています。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		研修を通して意識して行っています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		職員のお子さんが障がいを抱えているなどを通して他職員も配慮をしています。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○			地域交流は今後の課題です。また祭りなどイベントが開催できたらと思います。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		研修を通して理解等に努めています。	家族周知は今後もっとしていきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		研修を通して理解等に努めています。	非常災害時の備品等の充足はもう少し必要かと思えます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		発作の変化などの情報共有を保護者や学校などとも行っています。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			現在重度の食物アレルギーの子はいませんが、今後あった場合も対応できるかと思えます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		入浴に関しての安全計画を作成しています。	入浴以外の安全計画も文書化できたらと思っております。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			家族への周知は今後もっとしていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		文書に残し、振り返りやミーティングで共有しています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修を通して理解等に努めています。支援記録等にもあえてチェック欄をつくり意識するようになっています。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		一時的にやむを得ずの際は、支援者全員で確認しています。		